平成 8 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

梵鐘・・その受難の歴史

寺院にあって、時刻を知らせたり、また時によっては法会（ほうえ）の合図にも使用される釣鐘（梵鐘）、この梵鐘にも受難の歴史があることをご存じですか。

今を去る 400 年ほど昔、青梅地域も含む、広く関東一帯の支配を確立したのは、小田原に根拠をおく北条氏でした。しかしそれも束の間、北条氏の前に立ちはだかったのが、今年のNHK大河ドラマでお馴染みの豊臣秀吉だったのです。秀吉に関東経略の意のある事を知った北条氏政（永禄年間、辛垣城に拠る三田綱秀を攻め滅ぼした北条氏照の兄で小田原 4 代目当主）は、鋭意対策を講じ、軍備拡張を図ります。その一つが鉄砲製造に当てるための梵鐘徴発でした。

いま、成木 1 丁目にある安楽寺と、長淵 3 丁目の玉泉寺に伝わる「鐘借用状」（天正 16 年 <1588 >北条氏政発行）は、そのあたりの事情を伝える貴重な文書として、市の有形文化財に指定されています。

これによると、世の中が落ち着いたら、鐘は鋳なおして返すので、その時の証文としてこの文書を渡す旨が書かれてありますが、歴史は北条氏の滅亡へと進み、返還は果たされなかったようです。

さて、歴史は繰り返すといいますが、同じようなことが、50 数年前の太平洋戦争の時にもありました。

昭和 16 年（1941）、国家総動員法に基づく金属回収令が発動されました。軍需物資生産のため、金属類の国家への供出が進められたのです。ご年配の方ならご記憶の事と思いますが、戦局の進展にともない、それは銅釜など日用品に至る供出にまで進んだのです。そしてそれはやがて梵鐘も対象とされるにいたりました。

当時のこととて正確な統計はないのだそうですが、全国で 4 万 5 千鐘を超える数の鐘が供出されたと推計されています。

青梅地方の梵鐘も例外ではありませんでした。

市内から供出された梵鐘は、成木、延命寺鐘、成木・慈眼寺鐘、黒沢・聞修院鐘、今井・正福寺鐘、新町・東禅寺鐘、吹上・宗泉寺、勝沼・乗願寺鐘、青梅・梅岩寺鐘、青梅・常保寺鐘、千ヶ瀬町・宗建寺鐘、長淵・玉泉寺鐘、畑中・地藏院鐘、和田町・徳昌寺鐘、梅郷・天沢院鐘、柚木町・即清寺鐘、二俣尾・海禅寺鐘、沢井・雲慶院鐘、沢井・寒山寺鐘の 18 鐘にも及びました。

この時、幸いにして供出から免れたのは、根ヶ布・天寧寺鐘、塩舟・観音寺鐘、青梅・金剛寺鐘、今井・薬王寺鐘、成木・高水山竜学寺（常福院）鐘のたった 5 鐘だったそうです。その中の根ヶ布の天寧寺鐘は、銘文によりますと大永元年（1521）にこの寺の開基である三田弾正忠政定が寄進したものです。ということは、二度の受難の時を無事切り抜けて今に伝わる鐘あるわけです。国の重要美術品（昭和 23 年に指定）であるのも頷けますね。

（文責 野村）